

農村に住む高齢女性の食料品の調達方法と 病院・診療所への通院方法

ノベ マサオ
野邊 政雄*

目的 多くの高齢者が地方の農山村に住み続けている。高齢者が農山村で暮らし続けるためには、食料品の調達および病院や診療所に通院する交通手段の確保が最低限必要である。本稿では、高齢女性がどのように食料品を調達したり、病院や診療所へ通院するための交通手段をどのように確保したりして、農村での暮らしを維持しているかを明らかにする。

方法 岡山県高梁市宇治町と松原町で2016-17年に高齢女性を対象に個別面接調査を実施した。65歳以上80歳未満の女性を全数調査した。有効票数は139票であった。食料品の調達および病院・診療所への通院の主要な方法を取った回答者の特徴を χ^2 検定もしくはフィッシャーの直接確率検定で明らかにした。

結果 ①食料品の調達方法について多かった調達方法は、「自分で自動車・バイクを運転して、買い物をした」(59.7%)、「同居家族員が運転する自動車に乗って行った」(43.2%)、「生協による自宅への配達」(36.7%)であった。②地域外の病院や診療所へ通院するための交通手段で多かったものは、「自分で自動車・バイクを運転して、通院した」(52.5%)、「同居家族員が送迎」(39.6%)、「バス・タクシーを利用」(19.4%)であった。③高齢女性が自分で自動車を運転できる場合、自ら自動車を運転して地域外で買い物をしていた。しかし、自分で自動車を運転できない場合、同居家族員がいれば、高齢女性は同居家族員に自動車を運転してもらって、地域外で買い物をしていた。移動販売や配達によって食料品を調達している高齢女性には、特定の特性が見られなかった。④高齢女性が自分で自動車を運転する場合、自ら自動車を運転して地域外の病院や診療所へ通院していた。しかし、自分で自動車を運転できない場合、同居家族員がいれば、同居家族員が高齢女性を送迎していた。自分で自動車を運転できず、同居家族員もいなければ、高齢女性はバスやタクシーを利用していた。

結論 ①半数以上の高齢女性は自分で自動車やバイクを運転して、買い物や通院をしていた。これは、68.3%の高齢女性が自動車やバイクを運転できたためである。多くの高齢女性が運転免許証を保有していたので、移手段の確保は以前ほど深刻な問題ではなかった。②同居家族員は高齢女性の食料品調達や病院・診療所への通院で大きな役割を果たしていたのに対し、別居している近親者はあまり役立っていなかった。③近所の人が高齢女性の食料品の調達や病院・診療所への通院を支援することはあまりなかった。

キーワード 農村、高齢女性、食料品調達方法、通院方法、交通手段、相互扶助

*安田女子大学心理学部教授

I 緒 言

高度経済成長期から、地方の農山村に住む多くの若者が条件のよい仕事を求めて、都市に移り住むようになった。その結果、地方の農山村では、過疎化が進むとともに、住民の多くが高齢者となっている。そうした高齢者の多くは、自家用にあるいは市場に出荷するために農作業をしている。けれども、農産物をすべて自給できるわけではないので、自ら生産できない食料品を何らかの方法で調達しなければならない。それに加えて、多くの高齢者は体のどこかが悪く、病院や診療所に定期的に通院している。そこで、通院するための交通手段を確保しておくことが必要である。

筆者は、岡山県高梁市宇治町と松原町という農村で高齢女性に調査を実施した。本稿では、そのデータを分析し、高齢女性がどのように食料品を調達したり、病院や診療所へどのように通院したりしているかを明らかにしたい。

高梁川が高梁市の北から南へ流れている。備中高梁駅を含む旧高梁町は、高梁川東岸の比較的広い平野にある。成羽川が高梁市の南部で高梁川に合流している。高梁市の大部分は、300メートルから500メートルの比較的平坦な高原（吉備高原）である。宇治町と松原町は高梁川の西側の高原にあり、隣り合っている。2015年現在、宇治町と松原町の合計人口は1,338人であり、65歳以上の人口の割合は54.2%である（国勢調査）。

宇治町と松原町の中心地区には食料品などを販売する店舗が一軒ずつあるだけである。さらに、それぞれの中心地区には市役所の出張所である市民センター、郵便局、小学校がある。調査を実施した当時、宇治地域市民センターと松原地域市民センターの中に診療所があり、医師が月に2回派遣されて来て、2時間だけ簡単な診療を行っていた。このように、商業施設や生活関連施設がきわめて少ない。備中高梁駅と宇治町とを結ぶバスの便および備中高梁駅と松原町とを結ぶバスの便は、一日に6便ある。土

曜・日曜・祭日はそれぞれ3便と2便である。成羽川の上流にある高梁市成羽町は宇治町の南にあり、隣りあっている。高梁市は、週に2日1便だけ宇治地域市民センターと成羽町との間に生活福祉バスを運行している。高梁川を挟んだ旧高梁町の西側が、落合町である。備中高梁駅を中心とする旧高梁町、その対岸にある落合町ちかのり近似、伯備線の駅である木野山駅や備中川面駅の周辺、成羽川に沿った国道313号線沿道が市街地となっている。多くの商店、病院、診療所は、そうした市街地にある。

II 方 法

(1) 対象者および手続き

岡山県高梁市宇治町と松原町において2016年12月から2017年1月までの間に高齢女性を対象に調査を実施した。住民基本台帳にもとづいて、65歳以上80歳未満の女性をすべて列挙した。その年齢の女性は宇治町に80人、松原町に96人いた。これらの女性すべてを個別面接調査した。

(2) 調査項目と分析方法

調査では、食料品の調達方法および病院・診療所への通院方法についての質問を尋ねた。これらの質問は、選択肢の中から複数の項目を選択できるということで行った。本稿では、食料品の調達および病院・診療所への通院の主要な方法を従属変数とし、回答者が自動車を運転するかどうかや配偶者の有無といった独立変数との関連を χ^2 検定もしくはフィッシャーの直接確率検定で検討した。

(3) 倫理的配慮

調査の目的、方法、結果の取り扱い、研究助成金の出所を記した調査依頼はがきを事前に調査対象者に郵送した。調査依頼はがきに、結果は数値として発表するので、回答者の名前や回答は特定されないこと、また、本調査は岡山県庁の助成によって実施されていることを記した。調査依頼はがきを郵送したあと、調査員はすべての調査対象者を訪問し、調査の目的、方法、

表1 対象者の特性 (n=139)

(単位 人, () 内%)	
年齢 (平均値±標準偏差): 歳	72.2± 4.1
現住所居住年数 (平均値±標準偏差): 年	45.7± 17.6
家族収入 (平均値±標準偏差): 万円	213.1±124.7
学歴	
小学校	1(0.7)
中学校	52(37.4)
高校	77(55.4)
大学・短大	9(6.5)
自動車運転	79(56.8)
バイク運転	26(18.7)
配偶者有	98(70.5)
同居子有	43(30.9)
宇治町に居住	69(49.6)

結果の取り扱いを口頭で再度説明し、調査への参加があくまでも自由意志であることを話した。そして、調査員は調査に同意した調査対象者のみ調査を実施し、回答者が調査に応じたことをもって調査協力への同意とみなした。

Ⅲ 結 果

有効票数は139票であった(表1)。

「最近の3カ月、食料品の買い物をどのようにしたか」の質問への回答(表2)で最も多かったのは「自分で自動車・バイクを運転して、買い物をした」(59.7%)であり、次に多かったのは「同居している家族員(夫、子ども夫婦、孫)が運転する自動車に乗って行った」(43.2%)であった。「生協による自宅への配達」(36.7%)という回答も比較的多かった。他方で、「地元の商店で購入」したのは13.7%にすぎなかった。「業者の移動スーパーで購入」「農協の移動販売で購入」「生協による自宅への配達」のいずれかの方法で食料品を調達した回答者は、49.6%であった(以下、これら3つの方法をまとめて「移動販売・配達」)。

「最近の3カ月、地区の診療所以外の病院や診療所にどのように行ったか」の質問への回答(表3)で最も多かったのは「自分で自動車・バイクを運転して、通院した」(52.5%)であり、次に多かったのは「同居家族員が送迎」(39.6%)であった。「バス・タクシーを利用」(19.4%)という回答は、それらよりもかなり少なかった。大部分の高齢女性は地域外の

表2 食料品の調達方法

(単位 %)			
	合計	宇治町	松原町
地元の商店で購入	13.7	26.1	1.4
近所に来る移動販売で購入			
業者の移動スーパーで購入	10.8	14.5	7.1
農協の移動販売で購入	19.4	17.4	21.4
生協による自宅への配達	36.7	43.5	30.0
地域の外に行つて、買い物			
自分で自動車・バイクを運転して、買い物をした	59.7	63.8	55.7
バス・タクシーに乗って行き、買い物をした	8.6	8.7	8.6
他者の運転する自動車に乗せてもらい、地域外で買い物			
近所の人が運転する自動車に乗せていってもらった	5.0	10.1	-
同居家族員が運転する自動車に乗って行った	43.2	47.8	38.6
別居する子ども夫婦や孫が運転する自動車に乗って行った	7.9	7.2	8.6
高齢女性の代わりに、他者が地域外で購入			
近所の人が代わりに買い物	2.2	1.4	2.9
別居する子ども夫婦や孫が代わりに買い物	2.2	2.9	1.4
同居家族員が代わりに買い物	15.1	18.8	11.4
その他	1.4	-	2.9

表3 地域外の病院・診療所への通院方法

(単位 %)			
	合計	宇治町	松原町
自分で自動車・バイクを運転して、通院した	52.5	59.4	45.7
バス・タクシーを利用	19.4	13.0	25.7
社会福祉協議会の移送サービスを利用	0.7	-	1.4
近所の人や親族が送迎	3.6	5.8	1.4
同居家族員が送迎	39.6	40.6	38.6
別居する子ども夫婦・孫が送迎	5.0	7.2	2.9
地域外の病院・診療所に行くことはなかった	7.2	4.3	10.0

病院や診療所に通院しており、「地域外の病院・診療所に行くことはなかった」のは7.2%にすぎなかった。

「自分で自動車・バイクを運転して、買い物をした」と「自分で自動車・バイクを運転して、病院・診療所へ通院した」は回答者が自動車を運転するかどうかと関連性が高いと予想されるので、回答者が自動車を運転するかどうかとのクロス集計表を作成し、表4に示す。有意な高い関連性があり、回答者が自動車を運転すると、たいていの場合、自ら自動車やバイクを運転して買い物をしたり、通院したりしていた。

次に、「移動販売・配達を利用して食料品を購入」「同居家族員が運転する自動車で食料品の買い物」「同居家族員の送迎で通院」「バス・タクシーで通院」について、回答者が自動車を運転するかどうかごとに、配偶者の有無とのクロス集計表を作成し、表5に示す。「移動販

売・配達を利用して食料品を購入」は、いずれの変数とも有意な関連がなかった。「同居家族員が運転する自動車に食料品の買い物」では、回答者が自動車を運転しないのか配偶者がいると、回答者は同居家族員に自動車を運転してもらって、買い物をしていた。「同居家族員の送迎で通院」では、回答者が自動車を運転しないのか配偶者がいると、回答者は同居家族員による送迎で通院をしていた。「バス・タクシーで通院」では、回答者が自動車を運転しないのか配偶者がいないと、回答者はバス・タクシーに乗って病院や診療所へ通院していた。

IV 考 察

食料品の調達について、

「同居家族員が運転する自動車に乗って行った」が43.2%であり、「同居家族員が代わりに買い物」が15.1%である。このように、同居家族員は大きな役割を果たしている。これに対し、「別居する子ども夫婦や孫が運転する車に乗って行った」は7.9%であり、「別居する子ども夫婦や孫が代わりに買い物」が2.2%にすぎない。このように、別居している近親者はあまり役立っていない。他地域の病院や診療所へ通院することでも、同居家族員が重要な役割を果たしているが、別居している近親者はそうでない。「同居家族員が送迎」が39.6%であるのに対し、「別居する子ども夫婦・孫が送迎」は5.0%にすぎない。

都市と比べると、農村では住民の相互扶助は

表4 自動車の運転の可否と買い物および病院等への通院とのクロス集計表

(単位 %)

	自分で自動車・バイクを運転して、買い物			自分で自動車・バイクを運転して、病院・診療所へ通院		
	した	しなかった	有意性	した	しなかった	有意性
合計 (n = 139)	59.7	40.3		52.5	47.5	
自動車を運転する (n = 79)	97.5	2.5	**	86.1	13.9	
自動車を運転しない (n = 60)	10.0	90.0		8.3	91.7	**

注 χ^2 検定を行った。** $p < 0.01$

表5 自動車の運転の可否別に見た、配偶者の有無と食料品の購入および病院等への通院とのクロス集計表

	自動車を運転する			自動車を運転しない		
	した	しなかった	有意性	した	しなかった	有意性
合計 (人)	79			60		
配偶者あり (人)	62			36		
配偶者なし (人)	17			24		
移動販売・配達を利用して食料品を購入 (%)						
合計	51.9	48.1		46.7	53.3	
配偶者あり	53.2	46.8		38.9	61.1	
配偶者なし	47.1	52.9		58.3	41.7	
同居家族員が運転する自動車に食料品の買い物 (%)						
合計	27.8	72.2		63.3	36.7	
配偶者あり	33.9	66.1	*	88.9	11.1	**
配偶者なし	5.9	94.1		25.0	75.0	
同居家族員の送迎で通院 (%)						
合計	21.5	78.5		63.3	36.7	
配偶者あり	27.4	72.6	*	88.9	11.1	**
配偶者なし	-	100.0		25.0	75.0	
バス・タクシーで通院 (%)						
合計	5.0	95.0		38.3	61.7	
配偶者あり	3.2	96.8		22.2	77.8	
配偶者なし	11.8	88.2		62.5	37.5	**

注 χ^2 検定もしくはフィッシャーの直接確率検定を行った。** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

盛んである。しかし、食料品の調達について「近所の人が運転する車に乗せていってもらった」(5.0%)や「近所の人が代わりに買い物」(2.2%)という回答はとても少ないことから、近所の人は高齢女性の食料品の調達をあまり支援していないことがわかる。また、病院や診療所への通院方法について「近所の人や親族が送迎」(3.6%)という回答がとても少ないことから、近所の人は高齢女性の病院や診療所への通院もあまり支援していないことがわかる。

筆者は1997-98年に宇治町と松原町で調査を実施した¹⁾。当時、自動車の運転免許証を所持している65歳以上80歳未満の女性は両町にひとりもいなかった。そうした女性たちが若かったとき、女性が運転免許証を取るのには「生意気

だ」とか「危ない」とか家族に言われて免許証を取得できなかった。高齢女性は自動車を運転できなかったために、その当時、買い物や病院・診療所への通院は、高齢女性にとって大きな問題であった。両町に住むすべての女性のうちで65歳以上の女性が占める割合は、1995年に40.4%であった。その後、その割合は大きく上昇し、2015年に61.3%となった(国勢調査)。高齢化の進展が顕著であるから、高齢女性の買い物や病院・診療所への通院は問題がさらに深刻化していると予想されるかもしれない。しかし、2016-17年の調査当時、両町に住む65歳以上80歳未満の高齢女性のうち、68.3%が自動車あるいはバイクを運転するようになっていた。そのために、高齢女性の移動の問題は、高齢化率の数字から予想されるほどには深刻化していない。

クロス集計表の検討から明らかになったことを要約する。まず、食料調達方法についてである。「移動販売・配達」はいずれの変数とも有意な関連がなかった。これは、特定の特性を持った高齢女性が移動販売や配達によって食料品を調達しているのではないことを意味している。高齢女性の特性によって、食料品の調達方法が相違していることもあった。高齢女性が自分で自動車を運転する場合、自ら自動車を運転

して地域外で買い物をしていた。しかし、自分で自動車を運転しない場合、同居家族員がいれば、高齢女性は同居家族員に自動車を運転してもらって、地域外で買い物をしていた。

次に、地域外の病院や診療所へ通院する方法についてである。高齢女性が自分で自動車を運転する場合、自ら自動車を運転して通院していた。しかし、自分で自動車を運転しない場合、同居家族員がいれば、同居家族員が高齢女性を送迎していた。自分で自動車を運転せず、同居家族員もいなければ、高齢女性はバスやタクシーを利用していった。また、高齢女性が自ら自動車やバイクを運転して買い物や通院をする場合、自動車をたいてい利用していた。そして、買い物や病院・診療所への通院を支援する同居家族員は主に配偶者であった。

謝辞

平成28年度の岡山県庁のおかやま大学生中山間地域等研究・連携促進事業による助成を受けて本調査を実施した。

文 献

- 1) 野邊政雄. 高齢女性のパーソナル・ネットワーク. 東京: 御茶の水書房, 2006.